

Title	学会委員に関する附則
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1950
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.43, No.3 (1950. 9) ,p.208(72)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19500901-0072

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

會構造の變化を全體として把握することが弱いために、中世を
 一色にぬりつゞしてしまふ傾向があるということ。いま一つは
 農村の内部構造の究明にとどまつて、その村落が日本全體の中
 に於いて持つ地域的な特殊性や、社會全體の發展段階の上に於
 いて占める地位といったものに對する考慮が少いことである。
 例えは氏の扱ふ五つの莊園の中、一つは畿内であるが、他の四
 つは畿内周邊もしくはそれと同様の性格をもつ地域のものであ
 り、それらは古代權力の重壓からは比較的開放されており、し
 かも關東の如く遅れた地方ではなく、生産力的には先進地であ
 ること、したがつて農奴制の最も容易に成長し易い場所である
 こと、かゝる地帯に於ける村落が封建社會の全構造の中でいか
 なる歴史的意義をもつかという點に至つては、氏の考慮の外に
 あるといわねばならない。吾々はこゝに清氏の業績の偉大さ
 と共に、その限界をもはつきり認めることによつて、この論文
 集の研究史上に於いて占める位置を正しく評價し、その遺産を
 繼承發揚せしめることによつて、今後の研究の進歩に寄與せね
 ばならないと思ふ。
 (一九四九、七、二五)

本會に特別會員と贊助會員をおく。
 一、特別會員 應應義熱關係者で本會の主旨に賛同し、會員
 二名以上の推薦と委員會の承認を得た者。但
 し年額金千二百圓の會費(二期分納も可)を
 納める者。
 二、贊助會員 本會の主旨に賛同し委員會の承認を得た者。
 但し年額三千圓以上の贊助金を據出する者。
 特別會員及び贊助會員は、會則第三條に規定された諸事業に參
 加し、機關紙「三田學會雜誌」の無料配布を受けることができ
 る。(會則は本誌第四十三卷第一號または第二號所載)

右附則に基き委員會の承認を得た新入會員

- 贊助會員 星 月 玉 三 佐々木春雄
 増川 弘 平 濱 忠次郎
 井田 正 一 塚 田 一 夫
 石橋 進 一
 特別會員 上西泰藏(農林省水産廳・勤務)
 高橋伊一郎(農業綜合研究所・勤務)

編集後記

○經濟學は、その性格からいつて現實から浮き上つた理論であつては
 意味がない。理論的分析と實際問題の研究とは、つねに併行してゆ
 かねばならない。復刊後の三田學會雜誌は、第一號第二號ともにこ
 の趣旨に沿つて編集してきたが、今回もこの趣旨に基づいて山本教
 授の「アジア貿易の分析と展望」を巻頭論文とした。日本經濟の安
 定と復興の鍵は、貿易がどの程度に伸び得るかと云うことにある。
 國內經濟の諸施策はもとより重要ではあるが、今後の日本は封鎖經
 濟の形で復興して行くことは不可能である。そしてその貿易の相
 手國として、最も距離的に近いアジア諸國の經濟状態が、わが國の
 貿易、ひいては經濟復興に影響するところは少なくないであらう。日
 本經濟の實際問題を研究する人々は勿論のこと、純粹經濟理論に關
 心を持つ人々も、その理論が「宙に浮いた理論」にならないために
 は、是非一讀していただきたいと思ふ。
 ○續く二論文には、植木、富田兩君の勞作を掲載した。哲學的思想的
 諸問題に興味を有する讀者にとつては、好箇の參考資料となるであ
 る。經濟學が技術論に墮して、社會科學としての意味を失う様にな
 つては、その本來の使命は達せられ難いと思われるからである。
 (鈴木諒一)

禁 轉 載

本號定價 金七拾圓
 送料 六圓
 東京都港區芝三軒屋大經濟學部内
 編集者 高 村 象 平
 印刷者 大 橋 政 雄
 印刷所 東京都目黒區平町一六六
 富士精版印刷社

豫約購讀料一年分 金八四〇圓(送料共)
 半年分 金四二〇圓()

豫約購讀料は發賣所宛お拂込み下さい。
 誌代變更の場合は精算決済致します。
 編集に關する用件は發行所へ。
 營業に關する用件、購讀申込は發賣所へ願
 います。

發行所 東京都港區芝三田二丁目
 慶應義塾大學經濟學部研究室内
 慶 應 義 塾 經 濟 學 會
 日本出版協會員B二一〇一六
 發賣所 東京都新宿區角管一丁目八二番地
 紀 伊 國 屋 書 店
 日本出版協會員A二一〇一九

昭和二十五年八月二十五日印刷 第四十三卷
 昭和二十五年九月一日發行 第三號